コロナ禍で進む企業会計のオンライン監査――（第1回）

「災禍を日本が変わる契機にして、世界をリードするICT社会を作ろう」

「菅政権になり、オンライン診療の流れは止められません。これに加えて病院監査はこれからオンライン監査が主流になる」と、監査法人長隆事務所代表の長隆氏。一方システムベンダー側からも「リモート監査は大きな効率化ができメリットが大きい。今後、総力を挙げて資金投入し、次のシステムづくりをやっていく」と是枝伸彦・ミロク情報サービス会長も力が入る。コロナ禍で進むICT化が、どう業態を変えていくことになるか――。

監査法人長隆事務所代表
長　隆
Osa Takashi
×
ミロク情報サービス会長
是枝　伸彦
Koreeda Nobuhiko

企業の監査分野は大手監査法人で寡占状況

――是枝さん、専門の会計ソフト、業務ソフトの分野から見て、コロナのショックをどう捉えていますか。

是枝　コロナは特に私も含めてお年寄りの人には死を覚悟しなくてはいけない強力な感染症で、インフルエンザとは違います。その意味で企業に相当に大きいインパクトを与えています。特に中小企業の現場、モノづくりや飲食業、人と接しなければできない仕事に対してダメージが非常に大きかったと思います。われわれはそういう事業者にシステムを提供しています。その人たちの面倒を見ている税理士の方々にとっても、お客さまが非常に苦しい状況にあるわけです。

私はICTの世界でずっと生きてきて数年前までICT業界の協会会長もやっていましたが、いま大きな社会変革、ICTを中心にした新しい社会の仕組みが作られている気がします。私がそれで期待しているのは、IT化が進んで多くの企業に対して良い環境ができてくることです。

コロナは命に関わりますが、コロナ禍を契機にリモートによるICT化が社会で一気に進むきっかけになる、この災禍を日本が変わる一つの契機になればと思います。日本の社会には柔軟性がありますから、世界をリードするようなICT社会を作ってほしいと考えています。

――一気に変わるチャンスだと。菅政権はデジタル庁設置で行政から変わっていく姿勢も示しています。公立病院改革に長く取り組まれた長さんですが税理士、会計士の立場から、現状をどう見ていますか。

長　見ていて思うのは、いま政権交代して、コロナ禍の中で病院がオンライン診療に踏み切り、初診は対面だとしても、あとはオンライン診療でやろうという流れが出てきて、これはもう止めることはできないと思うのです。

ところが、オンライン監査となると、公認会計士の世界はとても遅れています。うち（監査法人長隆事務所）はすでに50法人と契約していて、これは病院専門の監査法人としては多い方で、大手監査法人並の多さです。でも肝心の大手は1監査1千万円も監査報酬をとります。この分野はそういう大手でほぼ寡占に近い状況です。

大手監査法人はどこも海外展開していますから、全てオンラインに切り替わってもおかしくないのですが、意外なほど進んでいません。それはやはり、どこかに抵抗勢力があるからではないかと思います。われわれお客さんは病院ですから、やはり政府と一緒になって、オンライン診療とオンライン監査をセットで進めていくことは意義があることだと思っています。

今後すべてのシステムを遠隔対応にする投資を

――是枝さんの会社は顧客数も多いと思いますが、オンライン監査についてはどう見ていますか。

是枝　当社はいま税理士・監査事務所とは6～7千カ所と取引きがあるのですが、それで、極端な話、例えば監査は、当社も上場会社ですから監査を受けている立場ですが、情報通信の技術が非常に発達してデータも全て電子化されていますので、これまで紙で印刷したものをチェックしていたことが、データにアクセスすることでできるようになるのです。

このようにICTが発達すると、これまで出向かなくてはならなかったものを全てリモートでもできるようになるので、リモート監査は監査法人にとってもメリットが大きいと思います。積極的にリモート監査をやる体制を取っていけば、大きな効率化ができます。

われわれシステムベンダーは、ではそれに耐えるシステムになっているか、というと必ずしもそうではないところがあります。ですから今後、総力を挙げて取り組む次のシステムは全てリモートでできるシステムをつくり上げていく。相当な資金を投入して次のシステムづくりを今やっているところです。

――長さん、オンライン監査はどう生産性向上につながっていくと考えていますか。

長　監査というのは監査される方からは嫌がれるものですが、少なくとも嫌がられない監査になっていくと思います。病院経営に役立つ監査をする。そのためには機械的にできる監査は全てオンラインで、という流れに大きく変わると思います。

実際、私どもはいま、ミロク情報サービスのシステムを使えばそれができると言っています。

第1号を京都府下の病院で初めて実行して、全く問題ないという報告が担当会計士から出てきました。もう1カ所、京都府下の別の病院からも問題ないと。課題はあるとは言っていますけれども。

会計士はこれから、仕事のやり方を変えなければ生き残れないと思います。例えば、社会福祉法人の場合、100カ所くらい拠点があるところは普通にあります。そこで現金実査をするといっても実際はやっていないのが現状ですが、オンライン監査なら全施設を一気に同時にできます。現金移動のリスクも防げます。

全てオンラインで可能です。そうすると会計士、監査人は一体何をこれからやるのかということになる。病院の効率経営に資する仕事が増えると思います。

――それは例えばどういう仕事になりますか。

長　指導的監査ということが重要になってくると思います。一部上場の大会社でもいまは巨額な監査報酬を払って監査人の監査を受けています。監査人の判子が欲しいからというだけのことなのです。毎回監査人から同じ質問を受け、本心では迷惑がっています。

ところが、こういうシステムに変われば、もっと、本当に経

営に役立つ指導的監査ができるかどうかが問われてくると思うのです。

5Gの登場であらゆる分野で情報革命が

――是枝さん、ミロク情報は病院分野、医療分野には強みがあるのですか。

是枝　特に病院に特化したソフトを持っているわけではないですが、私どものユーザーには結構、医療機関の先生は多いです。ですので医療分野ではかなりいろいろなところに入っていると思います。

不思議なタイミングだと思うのは、通信の世界で今5Gが出てきていることです。スピードと容量がこれまでとはケタ違いなのです。百倍、千倍という違いなので、例えば5分かかっていた処理を一瞬に行えます。

世界中で情報革命が起こってくる。それは社会のいろいろな仕組みも変えていくだろうと思いますし、先生が言われた監査の仕事ひとつ取ってもリモートで十分できるようになっていくのだと思います。

私が一番気掛かりなのは日本は少子化でこれから相当、生産性を上げていかないと国力が落ちていくことです。もっと真剣に対策を講じなくてはいけないと思います。

それを情報通信技術でカバーしていかざるを得ないと思います。これは可能だと思っています。

――コロナ禍でのデジタル対応に対して長さん、どんな声が聞かれていますか。

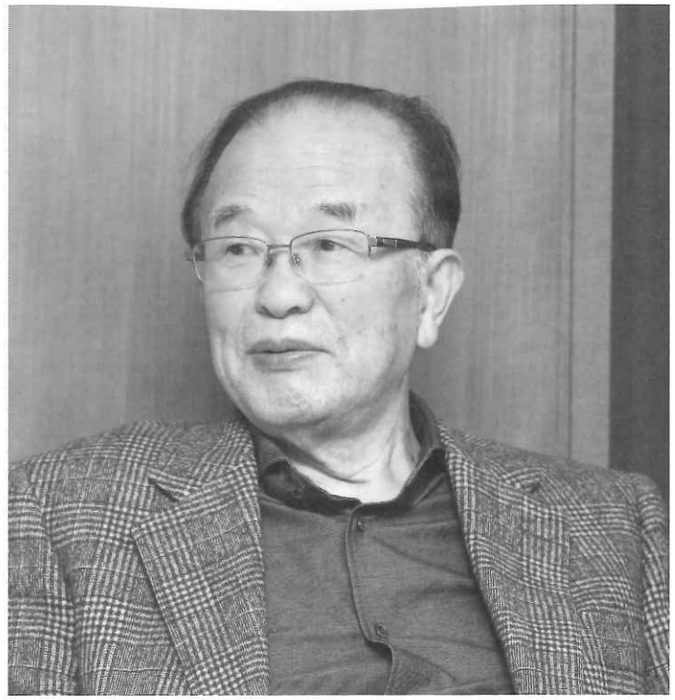
長　誤解をしないでほしいのですが、私どものように新しい取り組みをしている監査事務所は人に困らなくなっています。大手監査法人は今なかなか経営が厳しくて、それで大手を辞められた方も行き先が少ないので、良い会計士が私どもの事務所に大勢応募していただいています。

しかも目的を持って来られる人が多いのです。たかが40、50人の監査事務所に大手を辞めて多数応募してくるのです。若い会計士は見切りをつけるのも早いです。

私どもは既存の田舎の会計士さんが競争相手だと思っています。とにかくコストを下げて顧客を増やす監査。私どもは日本一安い監査法人だと自負していますが、それでも監査の質は落ちていません。私どもの会計士に感想文を出させたら、監査の質は落ちていないと言っています。これはいけると思いました。

ですから経営者も、今までどおりでいい、といったやり方は変わってくると思います。

――オンライン監査が広まれば監査報酬には下方圧力がかかるということですね。



おさ・たかし
1941年（昭和16年）3月生まれ。64年早稲田大学第二政治経済学部卒業。67年税理士試験合格、71年監査法人太田哲三事務所入所。75年公認会計士第三次試験合格。76年公認会計士長隆事務所開業。2002年税理士部門を法人化、東日本税理士法人に名称変更、代表社員に就任。総務省地方公営企業経営アドバイザー、総務省公立病院改革懇談会座長など多数の公職を歴任。

オンライン＋人工知能で産業構造も激変へ

長　そうです。ミロクさんのシステムを使えば旅費や宿泊費も掛かりません。監査時間も短縮できます。逆にコロナなので現場に行っても事務員が集まりません。ですがオンラインならば限られた人数で仕事ができるので、私どもには正直に言って成長分野なのです。

是枝　いかに今のＩＣＴを活用していくか、活用力の差がこれから出てくると思います。

これに人工知能がミックスされると、相当な変化が起きるだろうと思います。コロナ禍が契機になり、このタイミングで5Gが出てきて、これから先、あらゆる分野で産業構造の変化を促していくと思います。税理士、会計士の仕事もそうだし、いろいろな業種に変革が起きる。そういう認識を持ってなくてはいけないと思います。

――監査する相手方も意識改革が必要になりますね。

長　そうです。実は資産総額約５００億円、病院と特養老人ホームなどもやっている関東地区でも非常に大きな病院グループの部長以下経理５人くらいと今日、ＺＯＯＭ会議でお会いしたのです。私どもはミロク情報サービスのシステムを使うことを条件に、監査を引き受けると言いました。このシステムを使えば監査の報酬が上がるどころか、下げられるのです。

この法人では領収書や稟議書、請求書をスキャンして上海の会社で処理していこうと思っています。これから5Gの時代ですから、これをもっと早くできるようになるかも知れません。

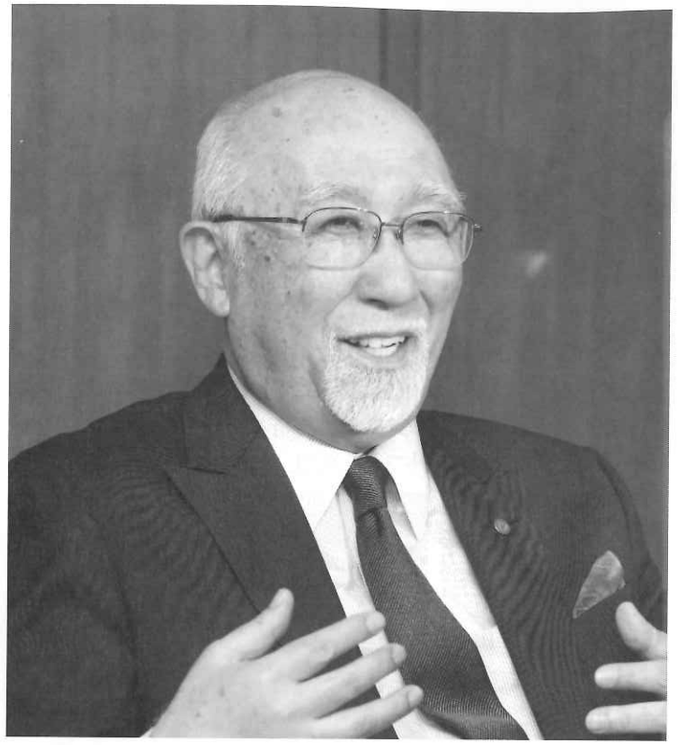
とにかくコロナで病院に優秀な事務員が集まらないのです。人がいないので6月から月次決算も上がっていない状況でした。それで、上海の会社に送って処理することにしたのです。

ところが上海の会社で使っているコンピューターの会計ソフトには、遠隔監査が入れませんでした。オンライン監査システムはいろいろな会計ソフトに入れるのが売りものですが…。私どもにとってはですから、遠隔システムで進入できるかできないかもいま、仕事を進める上での重要な課題になっています。

いずれにしても、コロナの影響でいま総資産５００億円という大病院でさえ、募集してもなかなか人が集まりません。そういう厳しい状況が一方にあるということです。

だからこれからは、地方は地方で人手不足で大変だろうけれども、都心は人がどんどん集まっているから大丈夫だろうと思ったら、あにはからんや、人手不足の状況がこういうところで起きているということです。

（以下、次号）



これえだ・のぶひこ
1937年鹿児島県生まれ。60年中央大学法学部卒業後、東京オフィスマシン入社。65年ミロク経理入社。77年ミロク情報サービスを設立、取締役就任。80年社長、92年社長兼会長、2005年会長。15年4月より取締役会議長を兼務。